

慶應義塾大学 SFC 研究所

「科学技術への社会的期待の可視化・定量化手法の開発」プロジェクト

研究開発ワークショップ(第3回)

「イノベーションを促進する社会インパクト・アセスメントフレームワークの開発と実装」

アジア・リージョナル・ダイアログ

文部科学省「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』」推進事業¹における公募型プログラム²の採択プロジェクト³である慶應義塾大学 SFC 研究所「科学技術への社会的期待の可視化・定量化手法の開発」プロジェクトは、香港にて開催される国際会議「社企民間高峰會 2012 (Social Enterprise Summit) ⁴」の一環として、香港社会服務連会 (Hong Kong Council of Social Services) との共催にて、研究開発ワークショップ(第3回)を開催いたします。開催場所は香港となりますが、参加希望の方はメールにてお申し込みください。

1. 目的と位置づけ

社会インパクトの可視化・定量化手法である SROI (Social Return on Investment, 社会投資収益率) 手法は、欧米では、実運用段階として、政府機関等の公的セクター、民間助成財団、NPO 等において、社会インパクトの定量評価手法として活用されています。例えば、英国では、内閣府がガイドラインを発行し(2009年)、Social Value Act 法(2012年)に基づく活用がされ、他の欧州各国でも、複数の助成財団によるオンライン・プラットフォーム Social e-Evaluator が運用されるなど、様々な活用や検討が行われています。また英国で 2011 年に開発・実装された SROI を基盤とする公共事業への民間資金の活用スキーム Social Impact Bond は、社会インパクトの定量評価の実装事例であり、米国でもマサチューセッツ州において導入が決定されるなど、世界的な潮流も生まれつつあります。また、アジア各国においても、SROI の活用や検討が進んでおります。例えば、タイでは、社会的企業の振興や支援を行う行政機関 TSEO(Thai Social Enterprise Office)において、SROI が主要な社会インパクトの評価手法としての活用が推進され、香港では、2011 年、SROI 活用を前提とした非営利組織、財団、政府等の関係者向けのセミナーやワークショップが繰り返し開催され、具体的な実装への検討が行われています。

日本においても、2011 年度に厚生労働省にて高齢者向け事業の評価手法として活用され、慶應義塾大学では、(標記の)文科省の採択プロジェクトの一環として、社会課題に対して科学技術を活用した際の社会インパクトの定量評価を可能にする手法として SROI を応用した手法が研究開発され、ガイドラインの開発と、実際の分析などが行われています。また、企業による CSR (Corporate Social Responsibility) 活動や研究開発投資、NPO や社会的企業、民間助成財団等による社会活動の社会インパクト評価の手法としての検討や試行も行われています。

本ワークショップでは、アジア諸国において SROI 手法の適用を推進する関係者が一同に会し、各国での社会状況に対応した手法の開発や実装の現状を共有するとともに、科学技術の活用を織り込んだ SROI 手法の可能性や、社会インパクトのアセスメント手法としての適用領域や限界、アジア諸国での運用モデルの考え方や課題、現地の社会状況に合致した実装のあり方などの検討を行います。

¹ 文部科学省「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』」推進事 <http://crds.jst.go.jp/seisaku/index.html>

² (独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター「科学技術イノベーション政策のための科学 研究開発プログラム」
<http://www.ristex.jp/stipolicy/index.html>

³ 研究開発プロジェクト「科学技術への社会的期待の可視化・定量化手法の開発」<http://www.ristex.jp/stipolicy/project/project03.html>

⁴ 社企民間高峰會 2012 (Social Enterprise Summit2012) <http://www.social-enterprise.org.hk/en/background.html>

2. 開催概要

主催：慶應義塾大学 SFC 研究所「科学技術への社会的期待の可視化・定量化手法の開発」プロジェクト
香港社会服務連会 (Hong Kong Council of Social Services)

日時：2012 年 11 月 28 日 (水) 15:30~18:00 (開場：15:00)

場所：Lecture Hall, The Federation of Medical Societies of Hong Kong

(4/F, Duke of Windsor Social Service Building, 15, Hennessy Road, Wanchai, Hong Kong.)

参加費：無料

言語：英語

事前申込：必要 下記「申し込みの方法」に沿ってお申し込みください。

本ワークショップは、香港にて 11 月 29 日から 12 月 1 日の日程で開催される国際会議「社企民間高峰會 2012 (Social Enterprise Summit) (主催：The Hong Kong Policy Research Foundation Limited, 共催：Home Affairs Bureau, The Government of Hong Kong SAR 等 16 機関・団体)」のプログラムの一環として位置づけられています。本ワークショップへの参加費は無料ですが、「社企民間高峰會 2012」の他企画については参加費や別途申込が必要となるものがあります。

3. プログラムとスピーカー (敬称略)

開場 15:00

趣旨説明とイントロダクション 15:30-15:40

Anthony Wong (Chief Research Officer, HKCSS)

【第 1 部】 社会インパクトのアセスメント：課題認識と現状共有 15:40-16:30

香港：Anthony Wong (Chief Research Officer, HKCSS)

香港：TBD (Excellence in Capacity-building on Entrepreneurship and Leadership for the Third-sector The University of Hong Kong, Hong Kong)

日本：伊藤健 (慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特任助教)

玉村雅敏 (慶應義塾大学総合政策学部 准教授)

タイ：Sunit Shresta (Executive Director, ChangeFusion Institute), TBD (Thai Social Enterprise Office)

シンガポール：TBD (Lien Centre for Social Innovation, Singapore Management University) ほか

休憩 16:30-16:40

【第 2 部】 ディスカッション 16:40-18:00

(1) イノベーションを促進する社会インパクト定量評価の役割と今後の発展

(2) アジア諸国での運用モデルの考え方や課題 など

4．申し込み方法

2012年11月16日（金）正午までに、ワークショップ担当（sest-info@sfc.keio.ac.jp）宛に下記必要事項をメールにてご連絡ください。

メール件名は「2012年11月28日ワークショップ参加希望」としてください。

- ・ 氏名（漢字）
- ・ 氏名（ふりがな）
- ・ 所属
- ・ E-mail
- ・ 電話番号

団体でお申し込み頂く場合も、上記必要事項を参加人数分ご連絡ください。

5．本ワークショップに関する問合せ先

研究開発プロジェクト「科学技術への社会的期待の可視化・定量化手法の開発」
ワークショップ担当（sest-info@sfc.keio.ac.jp）までメールにてお問い合わせください。

参考：

研究開発プロジェクト「科学技術への社会的期待の可視化・定量化手法の開発」について

先進国の中でも様々な社会課題に早く直面する「社会課題先進国」である日本にとって、いかに限られた社会的資源を効果的に投入して、高い社会生産性を実現し、様々な社会課題を解決してゆくかが重要となっています。

そのためには、科学技術への社会的期待を可視化・定量化し、その情報を巡って、科学技術と社会に関わるコミュニケーションを加速させ、技術イノベーションと社会イノベーションが相乗効果を発揮することが必要です。また、科学技術に関するプロジェクト立案、投資案件の審査、プロジェクトのモニタリング、事後評価などにおいては、社会にもたらす変化や受益者に対する便益を定量的に検討した上で、その社会的インパクトの仮説に基づいた判断を行うことが求められています。

そこで、慶應 SFC 研究所では、文部科学省「科学技術イノベーション政策における『政策のための科学』」推進事業の採択プロジェクト「科学技術への社会的期待の可視化・定量化手法の開発」において、これまで社会科学領域で実践的に研究されてきた、社会的期待を把握することに貢献する調査手法等を科学技術政策の分野に導入することで、より客観的根拠に支えられる科学技術政策の展開を可能とすることに取り組んでおります。

本プロジェクトにおいて研究開発する手法を活用することで、科学技術の研究開発プロジェクトにおいて、その前提とする社会的期待がどのようなものなのかが明らかになり、その社会的期待に応えるためにはどのような科学技術の革新や社会イノベーションが求められ、その開発や実現にむけてどのような政策的なリソースの動員が求められているかについての仮説構築が推進されれば、国民の社会的期待から政策立案に至る合理的な政策形成のプロセスを確立する環境が醸成される可能性があると考えています。

本プロジェクトは具体的に、政策マーケティング手法、討論型世論調査、SROI (Social Return on Investment : 社会的投資収益率) 分析手法という3つのアプローチから研究開発を行い、さらに、3つのアプローチを有機的に連動させることで、科学技術政策形成プロセスの基盤となる社会的期待の可視化・定量化の手法開発に取り組んでいます。

